

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽西中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 175人	社会 174人	数学 173人
	理科 173人	英語 174人	

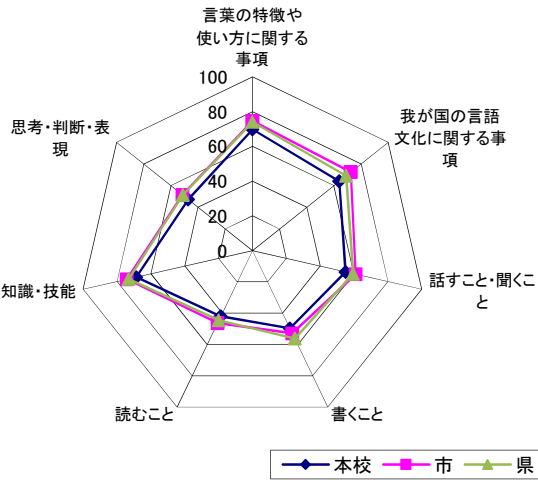
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	69.8	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	64.0	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	55.0	60.9	59.5
	書くこと	49.7	52.8	56.2
	読むこと	42.1	46.2	44.5
観点	知識・技能	68.6	74.2	73.1
	思考・判断・表現	47.3	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

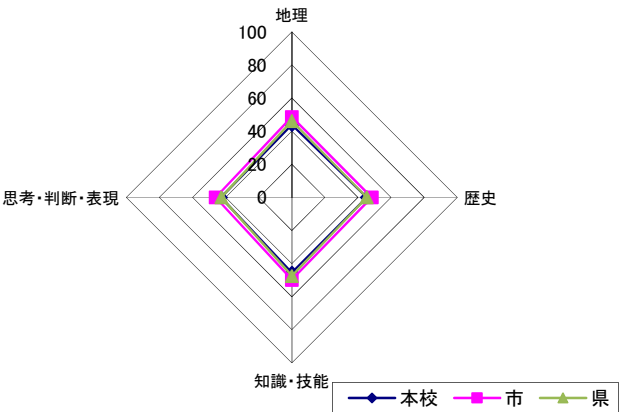
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県の平均を4.3ポイント、市の平均を4.9ポイント下回った。 ○学習した漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題では、県や市平均を上回っているものもある。 ●ほとんどの問題で県や市の平均を下回っている。	・言語の特徴や使いに関する事項の問題は全体的に県や市平均を下回っており、差が大きいものでは県平均と比べて8ポイント以上離れているものもある。今後は漢字や文法の学習にも時間をかけて取り組ませたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率が、市の平均より8.5ポイント低く、全領域の中で差が最大である。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題では、市の平均より10.4ポイント下回っている。	・今後の古典単元を学ぶ中で歴史的仮名遣いの特徴を改めて学習し直す機会を設け、実践的な問題に多く取り組ませる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を5.9ポイント下回った。 ●すべての問題で県や市の平均を下回っている。 特に話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、無回答率が高く、市が17.8ポイントのところ本校は26.9ポイントと大きく差が開いた。	・人の話を聞いたり、自分の意見を伝えたりと話す・聞く機会を増やしていく。 ・長文の問題において何を問われているのかを理解する力を身に付けるための練習問題にも取り組ませる。
書くこと	平均正答率は、市の平均を3.1ポイント下回った。 ●すべての問題で県や市の平均を下回っている。 無回答率が、すべての問題において市平均よりも5ポイントほど高い。	・書くことに苦手意識を持つ生徒が多いため、自由作文や生徒の興味のあるテーマでの作文などとりかかやすいものから取り組ませ、条件作文などの書くことへの苦手意識をなくさせる。
読むこと	平均正答率は、市の平均を4.1ポイント下回った。 ○問題別にみると、市や県の平均正答率を上回っている問題もある。 ●文章の内容について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均と10ポイント以上下回っている。	・段落の構成など基本的な問題は市の平均と同じくらいできているが、文章から読み取ったことを自分の言葉で記述する問題の正答率はかなり低い。文章を要約するような活動を授業に取り入れる。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	43.9	48.6	46.2
	歴史	45.3	48.3	45.3
観点	知識・技能	45.5	49.8	47.5
	思考・判断・表現	42.8	46.1	42.7



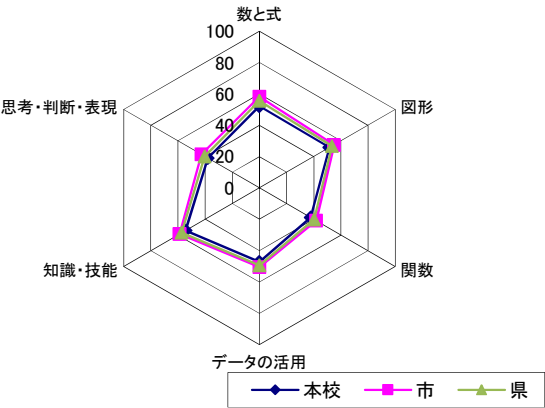
★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は、県の平均を2.3ポイント、市の平均を4.7ポイント下回った。 ○世界の宗教の習慣や分布の特徴について理解しているかどうかをみる問題において、正答率が市の平均を0.7ポイント上回った。 ○資料から、EU加盟国間で人々が移動する理由と移動先を関連付けて考察しているかどうかをみる問題において、正答率が市の平均を1.8ポイント上回った。 ●地理的分野においては、市の平均を4.7ポイント下回った。 ●アフリカ州の国々の国境が定められた経緯について理解しているかどうかをみる問題において、正答率が市の平均を12.7ポイント下回った。 ●中国の経済的發展と関わりのある事柄を示す資料について判断しているかどうかをみる問題において、正答率が市の平均を9.1ポイント下回った。 ●世界各地みられる気候区分の特色について理解しているかどうかをみる問題において、正答率が低かった。 ●記述式問題において、無回答率が高い。	・授業の始めに前時の復習をするとともに、定期的に小テストを実施し、基礎的基本的な知識の定着を図っていく。 ・地理的分野の学習においても、現在に至るまでの歴史的背景と関連付けながら、歴史的分野の学習との関連を図っていく。 ・授業の中で「資料からわかることは何か」を考えさせる活動を多く取り入れるとともに、複数の資料を活用しながら、関連付けて考察する力を高めていく。 ・気候区分図や雨温図に親しめるとともに、写真や映像などを活用しながら、その特徴や人々の生活の特色について、地球上の位置との関係において理解させ、大まかにつかませる活動を取り入れていく。 ・記述式問題に抵抗感がみられることから、日頃の授業においても資料を読み取らせて考察させ、自分の言葉で表現させる活動を取り入れていく。
歴史	平均正答率は、県の平均とは同じであったが、市の平均を3ポイント下回った。 ○複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、律令制下の負担に対し農民たちがとった行動について表現しているかどうかをみる問題において、正答率が市の平均を12.1ポイント上回った。 ○室町時代の社会の様子について理解しているかどうかをみる問題において、正答率が市の平均を13.6ポイント上回った。 ●歴史的分野においては、市の平均を3ポイント下回った。 ●世界の古代文明がおこった場所とその文明の特徴について理解しているかどうかをみる問題において、正答率が10.5ポイント下回った。 ●鎌倉時代に新しい仏教が広まった理由について、複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察しているかどうかをみる問題において、正答率が市の平均を15.5ポイント下回った。 ●武士が台頭してきた時期のできごとについて理解しているかどうかをみる問題において、正答率が低かった。 ●記述式問題において、無回答率が高い。	・授業の始めに前時の復習をするとともに、定期的に小テストを実施し、基礎的基本的な知識の定着を図っていく。 ・歴史的分野の学習においても、地図を活用しながら地理的位置を確認するとともに、地理的分野の学習との関連を図っていく。 ・授業の中で「資料からわかることは何か」を考えさせる活動を多く取り入れるとともに、複数の資料を活用しながら、関連付けて考察する力を高めていく。 ・歴史的事象や歴史的人物などを時系列で整理し、歴史の流れを大観させる活動を取り入れていく。 ・記述式問題に抵抗感がみられることから、日頃の授業においても資料を読み取らせて考察させ、自分の言葉で表現させる活動を取り入れていく。

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	52.2	58.2	55.5
	図形	51.6	55.1	53.5
	関数	37.7	41.9	40.2
	データの活用	47.2	50.5	49.4
観点	知識・技能	54.4	58.8	57.3
	思考・判断・表現	38.0	42.7	40.3



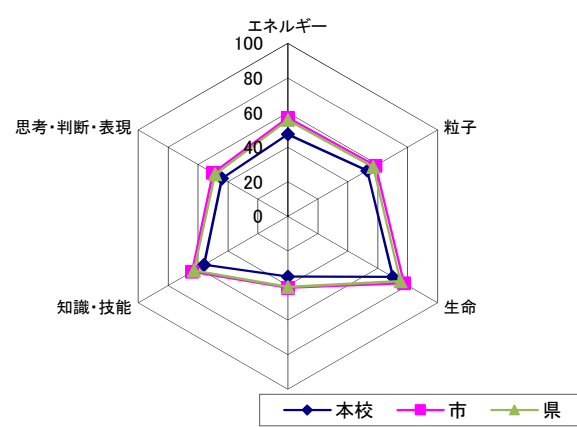
★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、県の平均を3.3ポイント、市の平均を6.0ポイント下回った。 ○与えられた正の数と負の数から、答えを求めることができるかどうかをみる問題では、県の平均を4.3ポイント、市の平均を2.1ポイント上回る正答率であった。 ●1次式の減法ができるかどうかをみる問題では、県の平均を9.6ポイント、市の平均を9.2ポイント下回る正答率であった。	・基礎的な計算問題でのミスが多く見られた。計算技能の向上を図るため、授業開始時に基礎的な計算問題の練習に取り組む時間を設けていく。 ・デジタルドリルを活用し、計算力の向上を目指す。
図形	平均正答率は、県の平均を1.9ポイント、市の平均を3.5ポイント下回った。 ○円柱と円錐の体積の関係について理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を2.3ポイント、市の平均を0.6ポイント上回る正答率であった。 ●円柱の側面積の求め方を理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を5.5ポイント、市の平均を7.4ポイント下回る正答率であった。	・この分野では、多くの言葉を定義していくので、既習事項の確認を丁寧に行うことで、全体的なレベルアップを図る。 ・作図の問題を繰り返し行い、定着を図る。 ・立体の体積や側面積の問題では、デジタル教科書や模型を活用して、視覚化することで、疑問解決につながる指導をする。 ・今後は、図形の証明問題に取り組むことになるので、デジタル教科書を利用して、ことばの定義だけでなく、ことばが示す関係を図の中でもとらえることができるように指導をしていく。
関数	平均正答率は、県の平均を2.5ポイント、市の平均を4.2ポイント下回った。 ○与えられた考え方をもとに、そのグラフを選ぶことができるかどうかをみる問題では、県の平均を0.3ポイント上回る正答率であった。 ●与えられたグラフが何を表しているかを理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を7.9ポイント、市の平均を8.8ポイント下回る正答率であった。	・表、式、グラフなどの基本的な事項についてのつながりを再確認し、数学的に説明する問題や与えられた式から情報を読みとるような問題に多く取り組ませる。 ・今後は、1次関数を学習することになる。比例の分野は、関数の学習の中で、2年生で1次関数、3年生で2乗に比例する関数と系統的に学習する非常に大切な領域なので、比例の内容を復習しながら1次関数の学習に取り組ませる。
データの活用	平均正答率は、県の平均を2.2ポイント、市の平均を3.3ポイント下回った。 ○ある階級までの累積度数が大きいヒストグラムを選び、その累積度数を求めることができるかどうかをみる問題では、県の平均を2.3ポイント、市の平均を1.4ポイント上回る正答率であった。 ●最頻値と中央値が同じ階級に含まれているヒストグラムを選び、その階級を答えることができるかどうかをみる問題では、県の平均を8.2ポイント、市の平均を11.6ポイント下回る正答率であった。	・度数分布表から累積度数を求めたり、度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明したりする問題の練習を多く取り入れていく。 ・今後は、既習事項を確認することで底上げを図るとともに、2つことがらを比較するような資料を用意し、個人活動、グループ活動、全体での話し合い活動へと段階的に発展させる展開を行うことで、比較検討の仕方を身に付けさせるとともに、自分の考えを適切に相手に伝える練習をしていく。

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	47.4	57.0	55.7
	粒子	52.9	58.6	56.9
	生命	70.1	77.5	75.2
	地球	34.9	41.4	40.9
観点	知識・技能	56.0	64.1	62.8
	思考・判断・表現	44.0	50.1	48.7



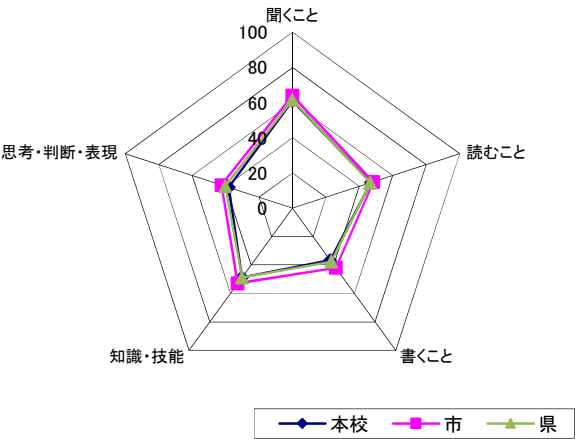
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、県の平均を8.3ポイント、市の平均を9.6ポイント下回っている。 ○ばねののびはばねに加えた力の大きさに比例していることを理解しているかどうかをみる問題では、74%の生徒が正答している。 ●鏡に映った像が見える範囲について理解しているかどうかをみる問題では、正答が非常に少ない。	・思考力を育てるため、実験・観察から得られる事象を既存の学習内容と照らし合わせ、整合性がある判断ができるよう指導していく。 ・光が通る道筋やグラフの書き方、力を矢印で表す表し方で、着目すべきポイントを確認しながら例題、実験の結果の処理、問題演習など、繰り返し行い、身に付けられるように改善する。
粒子	平均正答率は、県の平均を4.0ポイント、市の平均を5.7ポイント下回っている。 ○実験を行うときの危険な行動を理解しているかどうかをみる問題では、生徒の88%が理解している。 ●溶解度の変化について理解しているかどうかをみる問題では、正答が非常に少ない。	・実験のふり返り、まとめを丁寧に行い、結果だけでなくグラフや計算などのデータの処理の方法や、操作についても確認する。 ・考察時に根拠を述べる習慣が身につくように話し合い活動やレポート作成を行う。
生命	平均正答率は、県の平均を5.1ポイント、市の平均を7.4ポイント下回っている。 ○食べ物による動物の分類について理解しているかどうかをみる問題では、89%の生徒が理解している。 ●図をもとにゴボウを分類できるかどうかをみる問題では、生徒の約半数が誤答であった。	・植物、動物の分類の基準については用語を覚えるだけでなく、用語を用いて説明するなどの発展的な活動を取り入れる。 ・教科書以外の花のつくりや動物の骨格を紹介し、共通点・相違点に注目したり比較したりできるようにする。
地球	平均正答率は、県の平均を6.0ポイント、市の平均を6.5ポイント下回っている。 ○地震の揺れが届くまでの時間と震源からの距離の関係を理解しているかどうかをみる問題では、67%の生徒が理解している。 ●火山・地震・地層いずれも正答率が低く。特に柱状図から推測する問題では、正答が非常に少ない。	・顕微鏡の学習時に合わせて実体顕微鏡の操作についても練習し、技能を身に着けるように指導する。 ・地震・火山・地層の基本をもう一度ワークシートなどで繰り返し復習できるようにする。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.0	64.0	61.6
	読むこと	47.0	48.4	46.6
	書くこと	36.6	42.0	37.8
観点	知識・技能	48.8	52.9	48.9
	思考・判断・表現	38.1	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、県の平均を0.6ポイント、市の平均を3ポイント下回った。 ○情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題では、県の平均を3.2ポイント上回っているものもあった。 ●情報を正確に聞き取り、適切に回答することができるかどうかをみる問題では、県の平均を8.3ポイント、市の平均を9.6ポイント下回っており、課題が見られる。	・様々な問題形式に対応できるようにするため、AIドリルのリスニング問題などを活用し、英文を聞く練習をより多く取り入れていく。 ・英語を英語のまま理解できる耳を育てるため、普段の授業で英語を聞いたり、音読練習をしたりする機会を計画的に取り入れるなど指導を工夫する。
読むこと	平均正答率は、県の平均を0.4ポイント上回ったが、市の平均を1.4ポイント下回った。 ○日常的な話題について、自分が置かれた状況などから判断して、必要な情報を読みとることができるかどうかをみる問題では、県の平均を1.8ポイント上回ったが、市の平均を1.3ポイント下回った。 ●情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題では、県の平均を0.7ポイント、市の平均を3.9ポイント下回っており、課題が見られる。	・デジタル教科書の音声、絵や映像を参考にしながら、単語の意味を推測し、教科書の英文の概要をつかむ練習や他の長文問題にも計画的に取り組ませる機会を用意し、継続していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均を1.2ポイント、市の平均を5.4ポイント下回った。 ○疑問詞(Which)を正確に書くことができるかどうかをみる問題では、県の平均を5.1ポイント上回ったが、市の平均を4.5ポイント下回った。 ●一般動詞(study)の三人称単数現在を正確に書くことができるかどうかをみる問題では、県の平均を8.8ポイント、市の平均を12.9ポイント下回り、課題が見られる。	・習った文法を使って英文を作る練習を繰り返す行うことで、自分の力で英文を構成し、まとまりのある文章を作る力を育てる機会を授業の中で確保する。 ・生徒が書いた英文をALTに添削してもらい機会を多く設け、生徒自身が表現したいことについて英語で正確に表現できる力を身に付けるような指導を工夫していく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」という質問に対して、市や県の肯定的な回答の割合より約3%上回っている。今後も教員が和やかな雰囲気を出し、個に応じた指導を行っていく。

○「将来の夢や目標をもっている。」「家の人と将来のことについて話すことがある。」という質問に対して、市や県の肯定的な回答の割合よりやや上回っている。本校での様子では、進路に対する考えが漠然としていて、楽観的なところも見られるが、家庭内で進路に対する話し合いがもたれていることが分かる。進路選択に向けて生徒が自己理解をすすめる、具体的な進路計画を立てられるように、必要な情報を提供し、根気よく指導していきたい。

●「家で、学校の宿題をしている。」という質問に対して、市や県の肯定的な回答の割合より約13%下回っている。宿題の提出状況については、個人差があるが、授業における提出率と一致している。本校の生徒は、家庭学習にかけられる時間が、少ない傾向にある。また、「家で学校の授業の復習をしている。」という質問に対して、市や県の肯定的な回答の割合より22%下回っている。本校の生徒は、家庭学習にかけられる時間が、少ない傾向にあることがわかる。さらに、「家で、自分で計画を立てて勉強している。」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」という質問に対して、市や県の肯定的な回答の割合より下回っている。自分で学習内容を考えて取り組んだり、学習方法を工夫したりすることについては、あまり得意ではないということがわかる。

本校では、家庭学習の時間を確保するために、「毎日1ページ以上自主学習ノートの提出」という取り組みを行っている。また、自分で考えることが苦手な生徒や自主学習ではまかないきれない分野を網羅するために、補充プリントも用意している。今後も、家庭学習の重要性や取り組み方について指導し、家庭学習の習慣化を目指していきたい。

●「毎日、朝食を食べている。」「ふだん、一日当たりどのくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか。」「ふだん、一日当たりどのくらいの時間、テレビゲームをしますか。」「ふだん、一日当たりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。」などの質問に対して、市や県の平均に対して、以上のものにかかる時間が多い。また、朝食を食べて来なかったり、携帯電話等にかかる時間が多くなり、生活が乱れている傾向がある。生活習慣が乱れると、家庭学習や授業に向かう意欲が低下してしまうので、基本的な生活習慣について保護者の方々と連携しながら指導していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「分かる授業」の展開	- 英語科におけるT・Tの効果的な指導 - 小集団内でのグループ活動 1時間ごとのねらいとふりかえりの提示 - 一人一台端末(タブレット)の効果的な利用 - 定期テスト前の質問学習の実施 - レベルアップ学習の実施 - 夏休み学習サポートの実施	「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合は市や県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭学習に関する質問項目が、市や県の肯定的な回答より下回っている。	家庭学習の習慣化	「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習のやり方を示す。 「家庭学習強化週間」を実施し、定期テストに向けて学習計画表を立てさせ、保護者のコメントをもたせて提出させる。 - 学習日より自主学習ノートのまとめ方を紹介する。 - 各学年の廊下に見本となる自主学習ノートのコピーを掲示し、参考にさせる。 - 自主学習ノートは、毎日点検し、内容を充実させるようにアドバイスを行う。